

2010年度採択 研究推進プログラム「科研費連動型」 研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部 教授 氏名： 佐藤春吉
研究課題	多元主義的存在論による新しい批判的社会理論の開拓

・研究計画の概要

研究の計画について、平成22年度科学研究費補助金申請時の計画概要を記入ください。

現代の社会理論の動向は、ポストモダンや、構築主義といった、主観主義的世界理解の時代的傾向の影響を強く受けています。このような主観主義的諸前提からは、諸個人の主観を超える社会の客観的な諸構造の現実性とその存在論的位置を明確にできず、結果的に社会的出来事の取り返しのきかない峻厳性という人間社会における諸行為のもつ倫理的問題構造がうまくとらえられなくなっています。社会理論は存在論の方にその軸足を据え直すことによって刷新をはかるべきであると思います。私が構想する多元主義的存在論は、マルクスの多元主義的社会存在論から着想を得て、M.ヴェーバーの多元主義的世界論と行為論、K.ポパーの多元的存在論的世界論、N.ハルトマンの多元主義的存在論の哲学を総合しようとするものです。それは、世界の多元的存在諸次元の媒介・複合としての現実の様相を捉え、そこでの人間の位置、個人と社会、存在と認識、価値と自由といった存在諸次元を確定し関連づける社会存在論として展開することができます。また、そのような理解をもとに、それらの存在諸次元を実践的に媒介するものとしての社会的行為論を新しい視野のもとで論じることが可能になります。このような行為論は、人間の行為を社会的倫理的行為空間のなかで考察する視点を確立することを可能にし、自由、平等や公共性といった論題についても、独自の視点を提供することができると思っています。「多元主義的存在論」の構想は、私のオリジナルな着想にもとづくものですが、イギリスのロイ・バスカーやマーガレット・アーチャー、アンドリュー・セイヤーといった「批判的实在論(Critical Realism)」研究グループが、本構想と近似した思想前提をもって、その研究を精力的に展開しています。本研究では、この学派の研究にも学びまた交流していきたいと考えています。本構想は、近代以来深まってきた主観主義的な閉塞状況を克服し、世界の現実性と存在論的な位相の多元性を承認する実践的批判的实在論へと社会科学の方向を転換させ、新たな批判的社会理論の基礎固めをおこなうことを目的としています。この存在論の方向に向けた理論的探求は、社会哲学および社会学理論の刷新という意味で大きな意義があると考えています。

・研究成果の概要

研究成果について、概要を記入ください。

本年度は、上記の構想のもとで、当面、M. Weberの科学方法論を中心における彼の主張を多元主義的存在論の視点から再解釈する作業を行い、特に「理念型」概念を存在論的に読み解くことを目標にしている。研究はまだ、途上であるが、今後のその作業を形にしていきたい。

なお、本年度10月に、科研費の追加採択において採択された。